

解答

□

問一 背中・相手（途中・空中・練習・物置）

問二 a エ b ア c イ d ウ

問三 ウ 問四 テーブルの 問五 ア

問六 A ウ b エ c イ

問七 ぼくの父とぼくをほめ、ぼくの味方のふりをして相棒を詐欺師扱いした上で、相棒の言葉に驚いてみせることで、迷っていたぼくの背中を押して、笛を買うことを決心させたという役目。

問八 ウ

□

問一 a 祭典 b 素材 c 招 d 絵画

問二 日本はどう

問三 離れたところにある科学博物館に苦勞して行く努力。

問四 ニュートン

問五 [科学フェスティバルはふつう、] 実際の効果は期待されないのに、地域への経済効果や、関係者への能力開発の機会の提供といった効果がある[こと。]

問六 エ

問七 1 科学・技術は面白いものなのに、見せ方、提供の仕方に工夫が足りないこと。

2 「科学は文～ないと思う

□

① 使い方によって善にも悪にもなる

② とくどきむ～まうのだ。

③ 信じたのだ

④ 操作

⑤ うのみにせず、広い視野を持って考える

解説

一

問三 傍線①直前をよく読みましょう。男に「なにか飲むかね」と聞かれたが、ぼくは考えこむふりをした。ほんとうはなにも欲しくなく、すぐうちへ戻りたかったが、羊毛商のおじさんが「大事な買い物ときはあせっちゃだめだ、かえって相手をじらすぐらいでなくっちゃ」と言っていたのを思い出した…となっていますね。そんなことを考えていたのに、自分の口から出たことばは「なにもいりません」でした。思っていたこととは違うことを言ってしまった、すなわちウが正解となります。

問五・問六 いま自分のいもうとが発作をおこして苦しんでいると男に言われた「ぼく」は、奪うように笛を買って急いで家に戻りました。が、実際のところ、いもうとはすでに回復しており、発作をおこしてなどいませんでした。

問五・六の場面では、傍線②「驚き、とまどい」→A「呆然」→B「脱力」→C「気持ちをふりしぼって再確認」という流れになっています。

問七 ご主人の「行動」としては、①ぼくとぼくの父をほめた（+ぼくの味方をよそおった）②男を疑った（あるいは詐欺師あつかいした）③男の能力に驚いてみせた、の3点が答えの要素となります。また、④笛の購入を迷っていたぼくに買う決断をさせた、というのが「役目」となります。

二

問五 科学フェスティバルはふつうどういうものなのか？答えは「実際の効果は期待されない」あるいは「楽しむことを目的としている（楽しさを共有することを目的とする）」です。また「意外な効果」とは、本文「地域には経済効果を、聴衆には満足感を、関係者には能力開発の機会を提供する」の部分の指します。五十字以内という制限にあわせてまとめましょう。

問七 1 田舎の寿司屋における「ネタ」とは寿司の素材（おもに魚の刺身）であり、「仕事」とは寿司飯を味付けする技術や寿司を握る技術、盛りつけの手法などのことです。これを日本における科学をとりまく環境に置き換えると、「ネタ＝科学・技術そのものの面白さ」、「仕事＝見せ方、提供の仕方」となります。